

様式第4号（第5条関係）

平成30年3月31日

古賀市議会議長

議員名 姉川 さつき

平成29年度政務活動費収支報告について

古賀市議会政務活動費の交付に関する条例第6条第1項に基づき、別紙のとおり政務活動費収支報告書を提出します。

- 1 平成29年度政務活動費収支報告書
- 2 添付書類
  - (1) 政務活動費収支報告書（別紙1）
  - (2) 政務活動費支出内訳書（別紙2）
  - (3) 領収書又はこれに準ずる書類

別紙 1

平成 29 年度 政務活動費収支報告書

議 員 名 姉川さつき

1 収 入

政務活動費 120,000 円

2 支 出

項 目	金額 (円)	支出内訳書の番号
調査研究費		
研 修 費	94,920	1、2、3
広 報 費		
広 聴 費		
資料作成費		
資料購入費		
事 務 費		
支出合計		94,920 円

3 残額 25,080 円

## 別紙 2

## 平成 29 年度 政務活動費支出内訳書

番号	期 間	内 容	経費 (円)	備考
1	平成 29 年 10 月 13 日 ～10 月 15 日	日本女性会議 苫小牧市民会館	74,200 円	旅費 74,200 円
2	平成 29 年 10 月 26 日	森林・林業・林産 業活性化九州大会	5,720 円	旅費 5,720 円
3	平成 30 年 1 月 29 日	日本公共経営研究 所研修会	15,000 円	研修費 15,000 円

※研修及び視察には報告書を添付のこと



③

領 収 証

姉川さつき 様

30 年 1 月 29 日

★ ￥15,000

但「質問準備の効果的な方法」

1/29 14:00～ 研修会受講代として

上記正に領収いたしました

一般社団法人地方議員研

〒532-0004

大阪市淀川区西宮原2丁目

TEL 06 (7878) 6297

参考様式

<u>支出内訳の番号 1</u>	
調査研究報告書	
1 名称	日本女性会議 2017 とまこまい
2 目的	男女平等参画社会の実現に向けた課題の解決を探ると共に、参加者相互の交流促進や、ネットワーク化を図ることを目的としている。
3 実施時期	平成 29 年 10 月 13 日 (金) ~14 日 (土)
4 実施場所	北海道苫小牧 苫小牧市民会館
5 参加者	姉川さつき
6 その他	

# 旅程表

商品名	ANAシティプラン北海道（4-11月）2泊（九州各地発）				
商品コード	F0112A	旅行期間	2017年10月13日 金曜日～2017年10月15日 日曜日		
照会番号	84174500	代表者名／団体名	アネガワ サツキ 様	総人数	1名（幼児は含みません）

## ■行程（お客様毎のご旅行内容は別紙「お申し込み内容（行程）」にてご確認ください）

1日目	出発空港 <ご利用便> ⇒ 各空港 →（各自負担）→ 各ホテル ●到着後フリータイム
2日目	●終日フリータイム
3日目	●出発までフリータイム ホテル →（各自負担）→ 各空港 <ご利用便> ⇒ 帰着空港

## ■行程上のご注意

1日目	<p>◆◆行程中の各ご利用航空便につきましては別紙「お申し込み内容（行程）」にてご確認ください。利用便にお乗り遅れのないよう出発時刻の40分前までに各空港にご到着ください。◆◆</p> <p>◆◆大きな手荷物があるお客様は、出発空港お荷物受付カウンターまでお越しください。ただし、搭載スペースの関係上、大きなお荷物をお預かりできない場合がございます。詳しくはANA SKY WEB (<a href="http://www.ana.co.jp">http://www.ana.co.jp</a>)にてご確認ください。◆◆</p> <p>◆◆お持込み手荷物が増え、機内の収納が不足する場合がございますので、お荷物は極力お預けいただきますようお願いいたします。◆◆</p> <p>◆◆【航空便欠航・遅延に関わるご案内について】ホームページ (<a href="http://www.ana.co.jp/domtour/irgl">http://www.ana.co.jp/domtour/irgl</a>)にてANA便運航状況や欠航・遅延時の対応についての情報がご覧いただけます。◆◆</p> <p>空港-ホテル間はおお客様負担となります。</p>
3日目	ホテル-空港間はおお客様負担となります。

## ■代金に含まれるもの

- (1) 包括旅行割引運賃適用の航空運賃
- (2) 国内線旅客施設使用料（対象空港利用の場合のみ）
- (3) 規定の宿泊費・食事代
- (4) ※行程中の規定料金以外の交通費、食事代、入園料等はおお客様負担となります。
- (5) ※食事条件は、ご宿泊ホテルにより異なります。各食事条件をご覧ください。

## ■その他ご案内

- 【最少催行人員】1名
- 【お渡しするもの】
- (1) eチケットお客様控
- (2) 旅程表

※オプションプランをお申し込みの場合は、別途クーポンをお渡しする場合がございますので、販売店にてご確認ください。

【添乗員】同行いたしません。

【朝食付き宿泊施設をご利用の方】

早朝出発の場合は、お客様の行程によっては朝食をご利用いただくことができない場合がございます。その場合、お客様の朝食放棄となりますのでご注意ください。

【ANA FESTA各空港店舗ご購入割引について】

各空港のANA FESTAで1,000円以上お買い上げいただくと、ご購入金額から10%割引になります。ツアーご購入の際にお渡しする「旅程表」をご提示ください。グループでご参加のお客様で「旅程表」が代表者の方のみの場合、その他の方はホームページ (<http://www.ana.co.jp/tabijoho/>) より、「ANA FESTAおみやげ割引券」を印刷し、購入時にご提示ください。

※一部、割引対象外の商品がございますので、詳しくは店舗の販売員にお尋ねください。

※一部、ANA FESTAのない空港がございます。詳しくは (<http://www.anafesta.com>) をご覧ください。

【その他】

- ・お客様都合による行程の変更はできません。
- ・ご旅行期間中であって、当社の手配による旅行サービスの提供が一切行われない日（これを当社では「無手配日」といいます）については、当該日にお客様が被った損害について補償金は支払われません。
- ・同一宿泊施設に連泊される場合、施設情報が宿泊日数分だけ重複して表示されますが、ホテルからのおもてなしは特に記載のない限り、滞在中1回のご提供となります。チェックイン時にお申し出のうえご利用ください。

# eチケットお客様控

照会番号：84174500  
[代表者名：アネガワ サツキ 様]



発行単位：お客様ごと

**確認番号：320195281**

手続き時・搭乗時は、右上の2次元バーコードをかざしてください。

【お客様氏名／ANAマイレージクラブお客様番号】

お客様氏名	座席指定済の航空便	ANAマイレージクラブお客様番号
アネガワ サツキ様@59F	ANA 242便:47A/ANA4719便:12G/ANA 74便:37A ANA 273便:50A	

※機材変更、満席便、その他やむをえない理由により、予告なしに座席が変更になる場合もございます。

【航空便】

日付	便名	出発空港(時間)	到着空港(時間)
2017年10月13日 金曜日	ANA 242 便	福岡空港(08:00)	羽田空港(09:40)
2017年10月13日 金曜日	ANA4719 便(※1)	羽田空港(10:15)	千歳空港(11:45)
2017年10月15日 日曜日	ANA 74 便	千歳空港(17:30)	羽田空港(19:05)
2017年10月15日 日曜日	ANA 273 便	羽田空港(19:50)	福岡空港(21:50)

《ご案内》

- お客様との運送契約は便名に表示された航空会社の国内旅客運送約款に則ります。
- 便名横に(※1)の表示がある便は、エア・ドゥによる運航となります。
  1. エア・ドゥの機材および乗務員にて運航し、機内のサービスはエア・ドゥの基準により行います。

《空港でのお手続きについて》

- 事前に座席指定をお済ませのお客様は、スキップサービスがご利用いただけます。また、手荷物をお預けのお客様は、直接手荷物カウンターにて手続きをお済ませください。出発時刻の15分前までに保安検査場を通過し、10分前までに搭乗口へお越しください。
- 但し、下記のお客様は、スキップサービスがご利用いただけませんのでご注意ください。
  1. 座席指定をされていないお客様・満3歳未満の乳幼児をお連れのお客様および深い寝プランで参加のお子様  
自動チェックイン機・購入機で搭乗手続きをしてください。
  2. その他お手続きが必要なお客様(※)  
有人カウンターでの手続きが必要となります。ご出発の30分前までを目安にお手続きをお済ませください。  
※ペットをお預けになる場合・乗り継ぎでエア・ドゥまたはソラシド エア、スターフライヤーをご利用の場合  
※7歳以下のお子様を含む場合、自動チェックイン機・購入機がご利用いただけません。
  3. 車いすのご利用などお手伝いが必要なお客様  
有人カウンターでの手続きが必要となります。ご出発の40分前までを目安にお手続きをお済ませください。  
※電動車いすをお預けになる場合は、60分前までにお手続きをお済ませください。
  4. 1日の乗り継ぎ旅程が4区間以上となるご予約をお持ちのお客様
- 台風・積雪などにより運航への影響が予測され、お客様のご希望によりご予約便を変更(振替)されている場合でも、振替前の便情報の表示となりますのでご注意ください。2次元バーコード・確認番号については振替後もそのままご使用可能です。

《その他》

- このeチケットお客様控は記載された便のご搭乗まで大切に持ちください。
- 詳しくはご利用航空会社のホームページにてご確認ください。
- 今回ご利用のeチケットお客様控は、お申し込みされた旅行が催行されない場合、航空券のみを単独で使用することはできません。
- 券面に記載されている便以外はご利用いただけません。



行程表

10/13 (金)	福岡空港発 (8:00) → 羽田空港着 (9:40)・羽田空港発 (10:15) → 千歳空港着 (11:45) → JR千歳空港 (12:15) → 南千歳着 (12:18)・南千歳発 (12:20) → 苫小牧着 (12:40) → 苫小牧市民会館着 (13:00) 研修会 (18:00まで) → ホテルドーミーイン苫小牧
10/14 (土)	ホテルドーミーイン苫小牧 → グランドホテル王子 (9:30~12:00) → 苫小牧市民会館 (12:30~16:00) → ホテルドーミーイン苫小牧
10/15 (日)	ホテルドーミーイン苫小牧 → エクスカーション終了後 → 千歳空港発 (17:30) → 羽田空港着 (19:05)・羽田空港発 (19:50) → 福岡空港着 (21:50)

\* 2日(10/14)研修会 16時終了  
 当日福岡に帰れないため延泊

## 視察報告書

平成 30 年 3 月 30 日

### ○ 視察日

平成 29 年 10 月 13 日（金）～平成 29 年 10 月 15 日（日）

### ○ 研修先

北海道苫小牧市旭町 苫小牧市民会館

「日本女性会議 2017 とまこまい」

### ○ 視察目的

「北の大地で語ろう、これからの未来の一步を」をテーマに、人権の尊重や身近な地域課題など、社会の基礎となるべき問題と向き合い、男女平等参画について考える。

### ○ 参加者

姉川さつき

### ○ 視察内容

10 月 13 日 13:00～14:30

「ちがいはかけがえのない個性～ダウン症の娘と共に生きて～

講演 金澤泰子 東京藝術大学評議員 日本福祉大学客員教授

揮毫 金澤翔子 書家

ステージの上で、まず初めに金澤翔子さんが大きな筆で「共に生きる」という文字を書かれました。ダウン症の方は、握力や筋力が弱いと聞きますが、墨をたっぷりと含んだ約 20 キロの大きな筆で、非常に力強く一気に書ききられました。出来上がった書は、この大会開催中メイン会場に飾られました。

続いて、母親である泰子さんの講演がおこなわれました。40 歳で子どもを授かった喜びと、出産後 52 日目にして医師から娘さんがダウン症であるとの告知を受け、知的障害で歩行ができないとの診断に、多くの母親もそうであるように、大変苦しまれたそうです。

今の時代はそうではありませんが、30 年前は障害を持つ子を隠さなければならぬ風潮もあったそうです。小学校では 3 年生まで普通学級に通いましたが、何をしてもビリ。担任の教師に、手のかかる子どもで申し訳ないという「金

澤さん、気にしないで下さい。翔子さんがいるクラスは穏やかになり、優しい子が増えます」と言われたそうです。それまで障がい者としての、のマイナス面ばかりを考えていたのが、幸せに生きられるかも知れないと、初めて希望が持てたそうです。苦しみながら子育てをされた泰子さんの言葉には、どんな人にも生きていく希望が見出せるような、感動の言葉が散りばめられていました。また、その時々そうした人や言葉に出会われたようです。大きな闇がきたときには、それがチャンスに変わる時が必ずきたと言われ、最後に「人生は何が待ち受けているか分からない。生きてさえいれば絶望はない」という言葉を残されました。翔子さんの純度の高い魂を感じたときに、競争社会に生きるものは、反動で人を妬んだり、競争に勝ちたいという欲があったりすることに気づきます。ダウン症の子は、750人から千人にひとりの確立で生まれてくるそうです。世の中は生産性や効率性ばかり求めるけれど、この社会には、穏やかで平和と愛だけを求めるこういう子達が、実は必要なのですと言われたことが心に残りました。障がいがある人もない人にとっても、平和と協調と愛ある社会であって欲しいと思いました。

#### ○ 基調報告

15:00~15:30

報告者 武川恵子 内閣府男女共同参画局長

1975年、国連の国際婦人年であり、以来42年間取り組みを進めてきました。男女共同参画社会は、どのような経済状況の下でも実現していかなければならない課題。さらに加速する必要があるというのは、人口は減少局面、超高齢社会が目の前。生産年齢人口の15歳から64歳は95年をピークとして、1,000万人以上の減少。こういうことで女性に主力として活躍して貰うことが、日本の社会として必要になってきているということです。ところが、2016年のジェンダーギャップ指数をみると、日本は144カ国中、中国にも抜かれ111位という状況です。少子化問題と女性活躍を同時に達成することが地方や日本の創生を解く鍵だということは、頭では理解できても現実には課題山積という気がしました。まず、夫はイクメンであること。また、それができる環境を企業が整えること。ひとつひとつ、しかも急いで国も地方も企業も協力し合って、課題解決に取り組まなければならないと思いました。

○ 記念講演

15:30~16:30

講師 渡辺えり 劇作家 演出家 女優

渡辺さんはテレビで見たままの、とても明るくユーモアがあり、楽しい講演でしたが、幼少期にいじめに合い、不登校であったことも明かされました。50年以上経ってもいじめた子の名前や、言われたこと、顔や表情もはっきりと覚えているそうです。大人になって分かった事は、いじめた方は忘れていくということ。だからいじめられて死にたいという人には、絶対に死なないで生きて下さいと言いたい。相手はなんにも気にしていません。諦めないで、生き抜いて欲しいというメッセージを発信されました。

10月14日 9:30~11:30

第10分科会 「健康と食育」まだ間に合う！今の大人に食育を！

～将来を担う子ども達へ…現代社会の健康を考える～

コーディネーター 荒川義人 札幌保健医療大学保健医療学部  
栄養学科学科長。教授

パネリスト 青山則康 フードプロデューサー  
川畑盟子 元市立室蘭総合病院管理栄養士  
渡辺睦実 北海道コンサドレー  
札幌しまふく寮調理スタッフ

食育と言うテーマが、なぜ進められてきたかという点、日本食は非常にバランスが取れていて素晴らしい。世界から見て、モデル的な食事といわれてきたが、それは1970年から80年にかけてバランスを取っていた時代の話で、その後は主食離れが起き、バランスが崩れてきた。日本は世界で最も長寿なので、その背景として何を食べているのかと、世界から注目をされている。しかしながら、自給率は下がるし、生活習慣病が深刻な問題となってきていることから、全国的に食育が展開されることとなった。食育は、生まれる前の母親の胎内にいるときから始まって、死ぬまで栄養の問題は尽きないということでした。それならば、世代を問わず食育にしっかり取り組むことが、生涯健康に生きていける鍵を握っていると思いました。平成17年に国は基本法を定めていますが、市では更に具体的な食育計画が推進されることに、今後注視していきたいと思いました。

○ 特別講演 13:00~13:50

「渡る世間は嘘ばかり…格差社会を打ち破る」

講師 高橋義男 とまこまい脳神経外科

NPO 法人にわとりファミリー代表

思考停止の世の中、あきらめないで本質をつく (原点回帰)

という副題での講演でしたが、わずか50分の間にテーマが沢山あり、スピード感のあるしゃべり方で、ついて行くのが大変でしたが、大変興味深いお話でした。話のテーマだけでも、格差社会、社会の劣化と脳の劣化を防ぐ、高齢者の大事な任務、地域の中で現実を見る。遠くで見るな近くに寄れ。「お互い様」「持ちつ持たれつ」は、英語にはない言葉。互いに助け合う。これが集団で生きる動物や人間。それが、今の時代は集団が無くなりつつある。課題を超えるチーム意識が無く、地域問題解決能力が無くなった。みんなの力で支え合う。公ではなく地域がセンターという。ヒントは沢山与えられましたが、全てを解き明かさず、後は自分で考えなさいという宿題を与えられた気がしました。思考停止に陥らず、少しずつ解き明かしていきたいと思います。

○ 記念シンポジウム 14:00~16:00

とまこまい発 男女平等参画社会を語る

コーディネーター 神田道子 東洋大学 名誉教授

シンポジスト 高橋雅子 日本女性会議 2017 とまこまい実行委員長

原田和久 出光興産 (株) 人事部長

菅原修孝 苫小牧埠頭 (株) 取締役総務部長

岩倉博文 苫小牧市長

企業の立場から、男女平等参画のお話が聞けました。面接で女性と話す時、長く勤めたい、家庭を持って働き続けたい、男性・女性に分け隔てなく区別がない企業で働きたいという方が、大変多いそうです。まだまだ出来てないが、今後は子育てや介護など、一人ひとりの時間の制約に目を向け、柔軟な働き方ができる様、会社の制度として取り入れたい。企業が地域の中で貢献できることは、ひとつは雇用機会の提供。そして、人づくりが重要だと考える。尊重される人であることは、男女も国籍も関係ない。と、それぞれの方が、健全な経営で雇用を安定させることが、まずは地域貢献であるという認識と、今後の働き方への柔軟な対応の必要性を訴えられました。企業が時代のニーズに合わせ、課題解決をしていくとの姿勢には、大変共感を得ることができました。

## ○ まとめ

まず、この日本女性会議の開催にあたり、準備期間が 777 日間もの間、市民、団体、企業、行政とが連携し「オールとまこまい」を合言葉に一丸となり、熱気溢れる大会を成功されたことに、感謝と敬意を表したいと思います。11 の分科会の報告では、地域課題に向き合い、いろんな地域において様々課題は違いますが、めざすところは健全な地域社会の形成が大前提であると確信しました。記念シンポジウムでは、男女平等参画を推進する上での課題解決が、社会の土台作りになると共に、経験や学習を行う中で力をつけた人が連携・協働し、地域社会づくりに参画することが、推進の力になると思いました。市民、団体、企業、行政の連携というスローガンは、古賀市は昔から言われてきています。つながることで、いろんな課題解決が進むのではないかと思います。

参考様式

支出内訳の番号 2	
調査研究報告書	
1 名称	平成 29 年度 森林・林業・林産業活性化九州大会
2 目的	森林・林業・林産業の活性化と、山林地域の振興を図る
3 実施時期	平成 29 年 10 月 26 日 (木)
4 実施場所	大分県大分市 ホルトホール大分 大ホール
5 参加者	姉川さつき
6 その他	

## 視察報告書

平成 30 年 3 月 30 日

- 視察日  
平成 29 年 10 月 26 日 (木)
- 研修先  
ホルトホール大分 大ホール 大分県大分市金池南 1-5-1
- 目的  
九州の森林・林業活性化促進議員連盟と、林業関係者が一同に会し、森林・林業・林産業の活性化と、山林地域の振興を図るため。
- 参加者 姉川さつき
- 視察内容  
オープニングイベント～大分高等学校書道部による書道パフォーマンス
- ①主催者挨拶 大分県林活議連会長 井上伸史氏  
林活議連九州連絡会議会長 (鹿児島県) 柴立鉄彦氏
- ②来賓祝辞 林野庁次長 牧本幸司氏  
大分県知事 広瀬勝貞氏
- ③基調講演 一般財団法人日本経済研究所 専務理事  
鍋山 徹 氏 林業復活・地域創生推進委員会 WG 主査  
アメリカでのリノベーションの実例で、賑わいの創出や犯罪が減った、あるいは都市公園に再生されたことで、付近の不動産開発が活発化した成功例などの紹介がありました。林業の活性化には、3つの課題①地籍の明確化などの情報整備②体制の安定や補助金・助成金等の加工流通③若い人に伝え育てていく人材育成が必要ということでした。視点としては、林産林消を国産材でやること。素材を木に変え、外材から国産材へ。国産材の資源活用の拡大に向けた取り組みに対してはまさに今、林業の成長産業化に向けて、政府・林業界・2次3次産業界が、積極的かつ、協同しながら取り組みを加速するべきだということでした。国産材需要の拡大で視野を広げ、多様な森林マネジメントの導入で山を守



る。国民に、木肌を見せ触れさせ、愛される森林づくりが必要とのお話でした。

○ 報告

「平成 29 年 7 月九州北部豪雨を踏まえた今後の地産対策について」

林野庁森林整備部地産課 猪島康浩氏

7 月 5 日から 6 日にかけて、同じ場所に猛烈な雨を継続して降らせたことから、九州北部地方で記録的な大雨となった。(500 ミリを超える豪雨が、降り始めから 10 数時間のうちに集中的に降った)

9 月 8 日時点での被害状況は人的被害：死者 37 名、行方不明者 4 名、負傷者 21 名。建物被害：住宅被害、全壊 288 棟、半壊、一部破損 1,123 棟  
福岡県（林地被害）1,016 ヶ所 278 億円（林道施設等）88 路線 38 億円  
大分県（林地被害）61 ヶ所 19 億円（林道施設等）108 路線 10 億円  
その他、林野庁の対応状況と山地災害対策緊急展開チームの活動状況などの報告がありました。

○ 事例発表

「佐伯型循環林業の取り組みについて」

佐伯広域森林組合 代表理事専務 伊原誠一郎氏

平成 21 年に年間原木消費量 12 万 m<sup>3</sup>規模の大型製材工場の稼動を開始して以来、様々な取り組みの中でも、もっとも力を入れている事業の紹介がありました。

- ①コンテナ苗の生産
- ②造林作業員の育成
- ③林地残材の収集・活用
- ④原木の安定集荷・供給体制の整備
- ⑤製材競争力の強化

今後も時代のニーズに的確対応しながら、森林の有する公益的機能を守りつつ、地域経済の活性化に貢献したい。「佐伯型循環林業」の確立に向け、さらに取り組みを加速するということでした。

○ まとめ

平成 28 年の熊本地震や平成 29 年の九州北部豪雨など、九州は自然災害が多いという認識を新たにしました。林業の活性化はもとより、森林吸収源対策としての森林の整備・保全を計画的に推進しなければと思いました。

平成29年度

# 森林・林業・林産業活性化九州大会

日時 平成29年10月26日(木) 12:30～(開場12:00)

会場 ホルトホール大分 大ホール(IF)  
大分県大分市金池南1丁目5-1 TEL:097-576-8877

主催/森林・林業活性化促進議員連盟九州連絡会議 大分県森林・林業活性化促進議員連盟  
後援/福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・宮崎県・鹿児島県・大分県

参考様式

支出内訳の番号 1	
調査研究報告書	
1 名称	日本公共経営研究所 「あなたの質問を画期的に変える集中講座」
2 目的	執行部との議論を深めるため、質問の仕方を再考する。
3 実施時期	平成 30 年 1 月 29 日 (月)
4 実施場所	福岡市博多区駅東 1-16-14 リファレンス駅東ビル
5 参加者	姉川さつき
6 その他	

## 視察報告書

平成 30 年 3 月 30 日

- 視察日  
平成 30 年 1 月 29 日 (月)
- 研修先  
福岡市博多区駅東 1-16-14  
リファレンス駅東ビル
- 視察目的  
執行部との議論を深めるための質問の仕方を再考する。
- 参加者  
姉川さつき
- 視察内容  
「あなたの質問を画期的に変える集中講座」  
講師 宮本正一氏 日本公共経営研究所 代表  
同志社大学生命医科学部研究員

講師の宮本氏は、日本でただひとり医学博士号と、MBA（経営学修士）を持つ市議会議員として、寝屋川市議会議員を 5 期努められました。在任中には市議会議長や、橋下徹大阪府知事選挙をはじめ、選挙対策本部において事務局長を務めた回数は、11 回にも及ぶ経験から、今回の研修会では非常に具体的に説得力があるお話をお聞きすることが出来ました。はじめに質問とは、ただ単に執行機関に所信をただしたり、事実関係を明らかにするだけにとどまるものではなく、所信をただすことによって、執行機関の政治姿勢を明らかにし、それに対する政治責任を明らかにさせ、結果として現行の政策を変更、是正させ、あるいは新規の政策を採用させるなどの目的と効果がある。ということを言われました。

まずは、自分の経歴や公約から質問を作る。そして、質問のネタを捜すことがなくなる議員活動を心掛ける事が必要とのこと。国・都道府県からの入手方法は、内閣府 国民経済計算部地域特性勘定課。ここは統計の宝の山、しかも無料であると、活用を勧められました。

メディア等からの情報収集は、記者クラブを利用するようにとの話でした。  
質問は論点が整理されているか。文字数ではなく結論重視。  
一般質問は、背景は幹の設定で項目抽出、質問、原稿の木で整理。

質問の背景を高齢化問題とするなら、幹の設定は福祉計画やまち・ひと・しごと創生総合戦略。枝が、介護予防・認知症患者の状況、シルバー人材センター、ひとり暮らし見守り、包括支援センター、介護施設等。枝からの質問となる。

「検討します」「調査研究します」への切り返しの極意は、年間原稿作成シート、答弁マトリクスシートを作成するようにと、シートの作成も詳しく教えて頂きました。

○ まとめ

講師の宮本氏は、27歳という若さで寝屋川市の市議会議員に初当選されたそうですが、非常に活発な議員活動をされたことが感じられました。

質問のネタは、捜さなくても議員活動の中にある。と繰り返し言われた言葉には納得でした。議員たるもの広報3大活動をすべきと言われました。

(辻立ち) ストレッチ→毎日の必要はないが、残像を残せ。

(ポスティング) 有酸素運動→最低、年1回は出すべき。

(議員報告会) 筋トレ→少ない人数でも。

田中角栄は、戸別訪問は5万件、辻説法3万回されたそうです。

原点に戻り、あらためて自分の政治活動を見直したいと思います。今後も住民の声を聞き、良い方向を示すことが出来る質問を心掛けたいと思います。